

日本近代児童文学の研究、日本児童文学史の研究

研究内容

主に日本の近代児童文学及び日本児童文学史について研究している。具体的には大正期から昭和初期にかけての『赤い鳥』を中心とした童話童謡運動と同時代の文芸思潮、文化状況との関係についてが主たる研究テーマである。同時に、明治から現代にいたるまでの児童文学史についても研究対象としている。また国語教育分野においては、教科書教材・絵本と児童文学との関係について幅広い観点から研究を進めている。

地域・産学連携の可能性

主たる研究領域である、大正期から昭和初期の童話童謡においては、例えば童話においては宮沢賢治や浜田広介、また童謡においては巽聖火といったように東北出身の優れた作家が多数活躍している。また仙台という地に注目してみると、スズキヘキに代表される、風土に根差した優れた作品・児童文化が認められ、そうした作品・活動が東北という風土とどのようなつながりを持ち、そこにはどのような意義が認められるのかという点について今後研究を深めていく予定である。また、国語教育分野においては、学校教育現場において児童文学の持つ可能性について研究するとともに、主に大学の教員養成課程における実践的な児童文学の活用法について共同研究を行っている。



総合教育センター 日本近代文学、日本近代児童文学

大木 葉子 OKI Yoko

准教授、博士（文学）



KeyWord

日本近代児童文学、児童文学史、童話童謡、新美南吉、『赤い鳥』